

森づくり活動団体の紹介

前号の5団体に引き続き、別の活動団体3団体を紹介します。

新治市民の森愛護会

会の紹介	自然が多く残っている新治市民の森で、草刈、間伐、清掃、パトロールなどを毎回40名程で活動しています。四季のイベントも開催し、いはいは森工房でも市民の方に楽しんでいただいています。また地域の小・中学校への森に対する教育にも参加しています。活動日の午後は木工、炭焼き、自然観察、クラフトのクラブ活動も活発に活動中です。		
ひとこと	都合の良い日だけの活動参加OK。若い方の参加大歓迎。		
主な活動場所	新治市民の森(緑区)	連絡先	大川 浩司 TEL 045-934-9898 FAX 045-934-9898 E-Mail nhkouji@ksf.biglobe.ne.jp HP http://homepage3.nifty.com/NIIHARU/
会員数	135名		
活動日	毎週1回(土曜又は日曜の午前中) 詳細はHP参照		



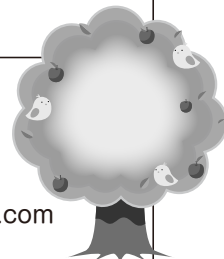
茅ヶ崎公園愛護会

会の紹介	愛護会は茅ヶ崎公園周辺の住民が中心となり、2002年7月に発足しました。現在では「地域年齢差関係なく公園で 緑を楽しんでいる」会です。園内には珍しい花が多く咲いていますので、花や木、竹林に興味のある方、汗を流し力 仕事で公園の保全、花壇の世話等が好きな方の集りです。		
ひとこと	広さ94,823m ² で都筑区で3番目に大きい公園です。清掃、緑道の草刈から里山の枝下し、竹林整備、花壇作りなど活動内容は多岐にわたります。地域・年齢差関係なく公園で緑を楽しみたい方を歓迎します。		
主な活動場所	茅ヶ崎公園(都筑区)	連絡先	木村 林次郎 TEL 045-942-4756 FAX 045-942-4756 E-Mail rinkimura@ae.em-net.ne.jp
会員数	60人(定例活動参加者:20~25人)		
活動日	毎月第三土曜日 9:00~11:00(夏は1時間繰り上げ)		



パナソニックエコリレー横浜地区協議会

会の紹介	地球環境問題の解決に向け取り組むために、1998年に「環境に配慮できる市民をめざそう」と従業員とその家族を対象とし、活動をスタートしました。持続可能な地球環境と社会づくりに貢献するために、人・地域・活動・次世代、グローバルへ「すべてをつなぐ」ことを目的に「地球を愛する」マインドを持ち活動を展開しています。		
ひとこと	今回は2013年6月に実施します。お気軽にご参加ください。(詳細はエコリレー横浜地区協議会迄お問合せください)		
主な活動場所	氷取沢市民の森(磯子区)	連絡先	袴田 勇 TEL 06-6901-0429 E-Mail ecorelay-j@gg.jp.panasonic.com
会員数	約8,000人 パナソニックグループ(横浜地区)		
活動日	6月、11月に森林保全活動を実施		



森づくりボランティア登録受付中! ◆◆◆◆

横浜市では、森づくりのボランティア活動に興味のある方に「森づくりボランティア」としてご登録いただき、研修等の支援や団体との橋渡しを行う取組を平成24年4月から実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

■問合せ■ 環境創造局みどりアップ推進課 森づくり担当
TEL:045-671-2624 FAX:045-224-6627 ks-jurinchi@city.yokohama.jp

横浜市 森づくりボランティア 検索

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kyoudou/morivolunteer>

現在 **56名**の方に
ご登録いただいています

横浜みどりアップ

平成25年3月発行

よこはまの森

ニュースレター No.77

横浜市環境創造局みどりアップ推進課 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 tel 045-671-2624 fax 045-224-6627
[よこはまの森ニュースレター web ページ] <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/kyoudou/morivolunteer/mori-news.html>

横浜市森づくりガイドラインを発行しました

平成21年度から策定していた「横浜市森づくりガイドライン」がいよいよ発行の運びとなりました。これまでも森づくり活動団体の皆様や職員向けに研修会を実施したり、試験運用を行ってまいりましたが、そこから得たご意見などをフィードバックし、より精度を高め、分かりやすくしたものとなっています。「横浜市森づくりガイドライン」は森づくり活動団体や行政が行う森づくりの基本的な技術指針になるものです。森づくり作業で疑問を感じたときや、思ったような成果が出ない場合にはぜひ参考にしてください。



「横浜市森づくりガイドライン」の内容について簡単にご紹介します。本ガイドラインは大きく「横浜の森を知る」「森のこれからを考える」「森に手を入れる」の3部から成り立っています。

「横浜の森を知る」では横浜の森の成り立ちや植生の解説、人間との関わりや現在の課題など基本的な知識について解説しています。個々の要素はさまざまな場所で聞いたことがある話ですが「横浜」という地域を中心に全体を見る機会は少ないのではないかと思います。

「森のこれからを考える」では、森の将来設計である「保全管理計画」の立案を中心に、さまざまな考え方が森の管理の方向性について、調整の方法を紹介しています。多くの人が暮らす横浜の森では、限られた森にいるようなニーズが集中するため管理の方向性を定めて計画的に管理をすることが重要です。

「森に手を入れる」では、実際の森の管理作業を念頭に、20の環境パターンを設定し、それぞれのパターンでどのような作業をどれだけ、いつ行えば良いのかを詳しく解説しています。また、指標となる生きものの紹介や作業をしすぎてしまった場合の兆候なども解説しています。

横浜市森づくりガイドラインは横浜市環境創造局ホームページで公開しています。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/green/hozenkeikaku/mori-dl.html>

また、市民の森愛護会、ふれあいの樹林愛護会、森づくり活動団体のみなさまには製本したものをお送りいたします。上記の団体以外の方で製本版をお求めになりたい方は横浜市市民情報室で頒布予定です(有料)。

研修の実施報告

森づくりリーダー養成講座を実施しました！

作業の安全管理や会員の新規獲得、定着といった課題に悩む森づくりリーダーさんに向けた研修会を実施しました。講師としてNPO法人日本環境保全ボランティアネットワーク(JCVN)から3名をお招きし、英国TCV(注)の“Standards Leader Training Program”を日本流にアレンジしたプログラムを行いました。プログラムは実際の活動の流れに沿って、どのように活動を進めるかを考えるシミュレーション形式で実践的なものでした。

日時・場所

- 平成25年2月9日(土)・10日(日) 9:30～16:30 二日連続講座
- 新治里山公園 いはる里山交流センター

内容

講師 朝廣和夫氏(JCVN副理事長 九州大学准教授)
志賀壮史氏(JCVN理事 NPO法人グリーンシティ福岡理事)
小森耕太氏(JCVN理事 山村塾事務局長)

参加者

市民の森愛護会、森づくりボランティア等
9団体23名



盛りだくさんのプログラムの中からいくつかをご紹介します。

●朝のミーティング実習

普段、何気なく行っている朝のミーティングですが、参加者の体調をチェックしたり、作業の目的や安全に関する注意を促したりと重要な場です。また、初めて参加する人や経験の浅い人の緊張を解きほぐす場でもあります。実習でのリーダーの立ち位置(リーダーが太陽に向かって立てば参加者はまぶしくない)や緊張を解きほぐすアイスブレイクの手法について学びました。

●ツールトーク

森づくりでのいろいろな道具を使います。ベテランの方には当たり前になっている道具でも、経験の浅い人には分からないことばかり。作業前や作業中、後に適切な使い方を伝えるのもリーダーの役割です。参加者はグループに分かれて割り当てられた道具について2分間、名前や使い方、注意事項などについてプレゼンテーションを行います。

適切な速さではっきりと、相手の目を見て話すのがポイントです。のこぎりやナタはともかく、軍手について2分間語るのはみなさん大変そうでした。

●プログラム立案実習

一日の作業の流れの要素を書いたカードを適切な順番に並べていきます。カードの項目は実に細かく、どこで水を飲むように促すか、道具の数を確認するのはどのタイミングか、など多岐にわたります。リーダーが一つ一つの行動を意識し、意味を検討することが参加者の安全と満足感につながることを学びました。

参加者の声

- ◎ リーダーの役割を具体的にイメージすることができた。
- ◎ 具体的な課題を通じた議論で実践的だった。



注:TCV(The Conservation Volunteers/IBBTCV)はイギリス最大の環境保全団体で、イギリスの伝統的な田園景観とそこに生息する動植物の保全のための活動を行っています。その活動は、人を育て、そこで人と保全作業を行うことに重点をおいています。安全で、「楽しかった」と言ってもらえるような環境保全活動を展開するために、人材養成とそのプログラム化に力を入れています。

森づくりボランティア養成講座が終了しました！

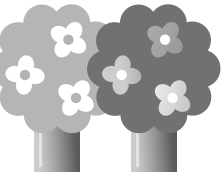
昨年の12月から開始した森づくりボランティア養成講座の3日目を2月に行い、全プログラムを終えました。1日目の森に関する講義や調査体験、2日目の森のガイドツアーに引き続き、3日目は、安全に配慮した管理作業についての講義や作業体験を行いました。

日時・場所

- 平成24年12月～平成25年2月
- A コース:新治市民の森/B コース:横浜自然観察の森

参加者

- 公募でお申込みいただいた40名の方にご参加いただきました。



3日目の内容

保安全管理計画や森の管理作業、道具の使い方等の説明の後、午後はグループに分かれて管理作業体験を行いました。Aコース(新治市民の森)では、スギ林に実生で生え大きくなりつつある常緑中木(シラカシ)の伐採(除伐)を体験しました。伐採した材は薪材やそだ柵(現地発生材を用いた柵)などに有効活用しました(写真参照)。Bコース(横浜自然観察の森)では、生きものに配慮した草地管理をテーマに、カマを使った草刈りを体験しました。単に作業するだけでなくその目的を明確化し、グループごとに決めたリーダーを中心に作業場所の調査や危険予知を行った上で、安全バーや見張りの配置といった安全管理についても一つ一つ確認しながら作業を行いました。最後に、森づくり活動団体や森づくりボランティアの登録制度について紹介しました。既に登録済みの方も含め、27名の方に「森づくりボランティア」としてご登録いただきました。

参加者の声(3日目)

- ◎ 実際のフィールドでの安全管理が重要だと実感した。
- ◎ グループで活動する場合のコミュニケーションの大切さを体験できた。



シラカシの伐採作業体験(Aコース)



切り出した枝葉を既存のそだ柵に編み込んで有効活用(Aコース)



草刈り作業体験(Bコース)

「これだけは覚えよう!30種シリーズ」の第3弾を実施しました! 「樹皮と冬芽で覚える樹木30種」

森づくり活動団体や愛護会、個人で登録をされた「森づくりボランティア」の方を対象に、研修「樹皮と冬芽で覚える樹木30種」を実施しました。樹皮や冬芽で樹種を判別することができれば、冬の作業時に伐るべき樹木と残すべき樹木を見極めることなどにも応用できます。

日時・場所

- 平成25年2月26日(火) 10時～15時半
- 新治里山公園(新治市民の森)

参加人数

- 15名(5団体+登録個人7名)



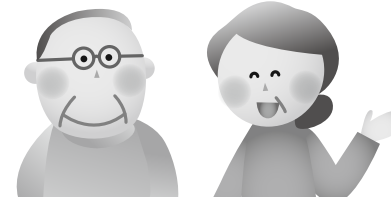
内容

講師 北川淑子氏(神奈川県植物誌調査会)

森づくり活動における冬の作業の意味を紹介した後、里山でよくみられる樹木の冬芽や樹皮の特徴や分類などについて学びました。その後森の中に入り、コナラ、コブシ、ゴズイ、ガマズミ、ミズキなどの冬芽や樹皮を講師の解説を聞きながら観察しました。また検索表を使った樹種の判別や、お昼休みの空き時間を利用した冬芽の「スケッチ」にも挑戦していただきました。最後には羊の顔に見えるオニグルミの冬芽も観察しました。

参加者の声

- ◎ 実際に実物を見れたので分かりやすかった。
- ◎ なんとなく枝ぶりなどで木の名前を覚えていたが、芽の観察により確実に樹種を覚えることができた。



コブシの冬芽観察中



オニグルミの冬芽